

# インドデスクレポート（2026年2月）

## <インド概況>

### ニチダイ サンセラ・エンジニアリングと先進自動車部品製造の合併会社を設立

精密鍛造金型の開発・製造・販売等を行うニチダイは、サンセラ・エンジニアリング社（本社：ベンガルール、以下「サンセラ」）と、共同出資による合併会社設立に関する契約を締結した。新会社では、自動車向けの精密鍛造および機械加工部品を製造する。

本契約に基づき、両社はベンガルールに合併会社を設立する。デファレンシャルアセンブリ、コンプレッサー、ドライブラインシステムなど、高度な技術を要する自動車用アルミニウムおよびスチール部品を製造する予定だ。出資比率は、サンセラが60%、ニチダイが40%となる。

今回の提携により、精密エンジニアリングおよび金型製造におけるニチダイの専門技術と、インド国内におけるサンセラの確立された製造・顧客基盤が融合する。両社は、インド国内および海外市場の双方に対応可能な製造プラットフォームの構築を目指す。

### 【デスク解説】

本提携は、ニチダイの高度な鍛造技術とサンセラの強固な製造基盤を活用し、グローバル競争力を備えた生産プラットフォームを創出するものである。ベンガルールでの合併会社設立は、現地化を進めつつ輸出対応力も備える明確な戦略を示している。本協業は技術力の深化、製品付加価値の向上、そして長期的な国際競争力の強化につながる。

### アイシン インドに新たな自動車部品工場 2 拠点を建設

大手自動車部品メーカーのアイシンは、約 320 億円を投資し、インドのマハラシュトラ州とハリヤナ州に新工場を建設することを発表した。マハラシュトラ州では新たに土地を取得して新工場を建設し、ハリヤナ州では既存工場の敷地内に新工場建屋を建設する計画だ。いずれも 2029 年の生産開始を予定している。

インドではこれまでマニュアル車が主流であったが、近年はオートマチック車への需要が高まっている。アイシンはこの動きに対応するため、インド子会社であるアイシン・オートモーティブ・ハリヤナを通じて資金を投入する。

新工場では、オートマチックトランスミッション（AT）、無段変速機（CVT）、およびボディ部品を製造する予定だ。インドにおける自動変速機の現地生産としては、同社初の取り組みとなる。

現在、アイシンはインド国内で 4 つの生産拠点を運営している。2025 年には電気自動車（EV）向け eAxle の生産統括を開始し、トヨタのインド子会社であるトヨタ・キルロスカ・オートパーツでの実生産をスタートさせた。

### 【デスク解説】

アイシンによる 320 億円の投資は、急成長するインドのオートマチック車市場に対する長期的なコミットメントを示すものだ。初めて変速機の現地生産に踏み切るとは、持続的な需要拡大への確信と、輸入依存の低減およびコスト競争力向上を目指す戦略を反映している。マハラシュトラ州およびハリヤナ州での生産能力拡大は、主要 OEM 拠点との連携強化にもつながる。総じて、本投資はインドのパワートレインおよび電動化分野において、アイシンの存在感をさらに高めるものとなる。

### 三井不動産、マヒンドラ・ライフスペースと共同事業を開始

不動産大手の三井不動産は、インドの財閥マヒンドラグループ傘下のマヒンドラ・ライフスペース・デベロッパーズ（本社：ムンバイ、以下「マヒンドラ・ライフスペース」）との共同事業第一弾として、ベンガルールにおける分譲住宅事業「Mahindra Blossom」に参画することを発表した。

「Mahindra Blossom」は、総開発価値約 3,260 億円規模のプレミアム高層住宅。ベンガルール有数の IT・雇用集積地であるホワイトフィールドに立地し、同市で 4 番目となる「ネット・ゼロ・ウェイスト（廃棄物実質ゼロ）」を掲げる住宅開発である。

本プロジェクトでは、約 730 戸の住宅に加え、ハーフオリンピックサイズのプール、ジム、バドミントンコート、ジョギングトラック、ペットパーク、コミュニティスペースなど、多彩な共用施設を備える。約 9,010 平方メートルのアメニティスペースと約 1.6 ヘクタールの専用緑地を有し、心身の健康を重視した住環境の実現を目指す。また、敷地内に商業施設も併設し、現代都市型のライフスタイルに対応した総合的な居住エコシステムを構築する。

三井不動産は 2020 年のインド進出以来、大規模なオフィス開発を手掛けてきたが、今後は住宅市場のニーズにも応えていく方針だ。

#### 【デスク解説】

本提携は、インドの高級住宅市場における日印協力の拡大を象徴している。最初のプロジェクトとして「Mahindra Blossom」を始動させることは、公共交通機関（メトロ）と IT 需要に支えられたホワイトフィールドのような高成長エリアへの戦略的な注力を反映したものだ。持続可能性やネット・ゼロ・ウェイストへの取り組みは、環境配慮型住宅を求める顧客ニーズにも合致する。本提携は、マヒンドラ・ライフスペースの資本基盤と開発能力を強化し、プレミアム住宅ポートフォリオの拡充に寄与するだろう。

### サトラック 4 拠点を新設へ 156 億円を投資

特装車製造販売の極東開発工業の 100% 子会社であるサトラック・エンジニアリング（本社：ベンガルール、以下「サトラック」）は、今後 7 年間で総額約 156 億円を投資し、インド国内に新たに 4 つのトラックボディ製造工場を設立する計画を発表した。

サトラックのマネージング・ディレクター、MC バントワル氏は、1 工場あたり約 43 億円を投資し、2 年ごとに新工場を順次立ち上げる予定であると述べた。新拠点はまずジャムシェドプルに建設し、その後ブネー、ガンディナガル、ベンガルールへと拡大する計画だ。この段階的な拡張により、主要産業が集中するエリアでのプレゼンスを強化する。同時に、納期短縮や地域密着型の営業強化、市場浸透の深化を図る。

さらに、本投資は雇用創出や技能開発の機会拡大にも寄与する見込みだ。生産規模の拡大によってインド国内および周辺市場での競争力を高め、より強靱なサプライチェーンの構築を目指す。具体的なスケジュールや用地選定の詳細は未公表だが、本計画は製造業拡大に向けた同社の強い意欲を示すものとなっている。

#### 【デスク解説】

サトラックによる総額約 156 億円の拡張計画は、インドの商用車および物流エコシステムの成長を見越したものだ。4 つの主要産業拠点に工場を段階的に展開する戦略は、地理的分散による納期短縮と地域市場の深耕を重視している。親会社である極東開発工業の支援のもと、本拡張は現地生産

能力を強化するとともに、サプライチェーンの強靱化に寄与する。サトラックがインド国内外の需要を取り込み、事業規模を拡大していくための盤石な基盤となるだろう。

以上